



平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月14日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 渡邊和雄
 定時株主総会開催予定日 平成26年3月25日
 有価証券報告書提出予定日 平成26年3月25日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 福
 TEL 0968-66-2111
 平成26年3月26日

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期	7,873	3.1	360	33.6	309	50.7	191	50.7
24年12月期	7,635	4.2	269	58.5	205	121.6	127	122.4

(注) 包括利益 25年12月期 228百万円 (68.3%) 24年12月期 135百万円 (129.7%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年12月期	18.73	—	1.9	1.4	4.6
24年12月期	12.45	—	1.3	1.0	3.5

(参考) 持分法投資損益 25年12月期 一百万円 24年12月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期	21,800	10,355	47.5	1,001.72
24年12月期	21,676	10,169	46.9	995.25

(参考) 自己資本 25年12月期 10,355百万円 24年12月期 10,169百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年12月期	655	△464	△261	239
24年12月期	633	△371	△235	310

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年12月期	—	2.00	—	4.00	6.00	61	48.2	0.6
25年12月期	—	4.00	—	6.00	10.00	102	53.4	1.0
26年12月期(予想)	—	3.00	—	5.00	8.00		46.0	

(注) 平成25年12月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当2円00銭 特別配当2円00銭
 平成25年12月期期末配当金の内訳 普通配当5円00銭 特別配当1円00銭

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,840	△1.3	90	△30.5	70	△35.7	30	△64.3	2.90
通期	7,820	△0.7	320	△11.3	280	△9.6	180	△6.1	17.41

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) グリーンランドサービス株式会社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

25年12月期	10,346,683 株	24年12月期	10,346,683 株
25年12月期	9,149 株	24年12月期	129,149 株
25年12月期	10,237,589 株	24年12月期	10,217,678 株

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、[添付資料]5ページ「1. 経営成績に関する分析 2) 次期の見直し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	7
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	8
3. 経営方針	10
(1) 会社の経営の基本方針	10
(2) 目標とする経営指標	10
(3) 中長期的な会社の経営戦略	10
(4) 会社の対処すべき課題	10
4. 連結財務諸表	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(セグメント情報等)	18
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループを取巻く環境は、新政権の経済政策や株価上昇等による景気回復への期待感から、個人消費意欲が刺激されたことも要因となり、北海道における豪雪や、九州における夏から秋にかけての天候不順などの影響で、ホテル事業及びゴルフ事業は伸び悩んだものの、春休みやゴールデンウィークなどの繁忙期の好天ならびに各種イベント及び前年夏に導入した大型アトラクションの効果により九州の遊園地事業が好調に推移したため、当社グループの業績は前連結会計年度を上回る結果となりました。

また、これまで外部委託していた、九州の遊園地における園内清掃管理業務やホテル及びゴルフ場における設備保守管理業務を当社グループでの管理に切替える等、直営化を取り進めることで経費節減や運営の効率化を図りました。

さらに、連結子会社の有明リゾートシティ株式会社とグリーンランドサービス株式会社との合併により、保険代理店業の新たな顧客獲得や、遊園地内の飲食・物販店舗の総合的な管理体制を構築し、グループ事業の経営基盤強化を図るとともに、グリーンランドサービス株式会社が遊園地・ゴルフ事業部門に出向派遣していた社員を直接雇用に切り替え、個々の意識改革及びスキルアップを促しました。

その結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,873,615千円（前連結会計年度比238,107千円増）、営業利益360,553千円（前連結会計年度比90,648千円増）、経常利益309,579千円（前連結会計年度比104,143千円増）となり、当期純利益は191,779千円（前連結会計年度比64,541千円増）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	7,873,615	7,635,507	238,107	3.1
営業利益	360,553	269,905	90,648	33.6
経常利益	309,579	205,435	104,143	50.7
当期純利益	191,779	127,237	64,541	50.7

事業の種類別セグメントの概況は、次のとおりであります。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、季節毎に多彩なイベントを開催いたしました。春のイベントにつきましては、「仮面ライダーウィザード超魔法伝」と題し、仮面ライダーウィザードをメインキャラクターに期間前半の3月2日から4月19日にかけての49日間は、「平成ライダー戦記」を、後半の4月20日から5月31日にかけての42日間及び6月8日から6月30日にかけての土・日8日間は、「昭和ライダー戦記」を、さらに6月1日及び2日には、スーパー戦隊と仮面ライダーがコラボするスペシャルショーをグリーンランドでしか見ることができない大迫力のスケールで開催いたしました。さらに、3月16日から5月6日にかけての52日間は、「初音ミクとあそぼうっ！ in グリーンランド」と題し、10代20代の男女を中心に人気を集めている「初音ミク」を題材としたイベントを開催し、若者層の集客を図りました。その結果、イベント関連商品の売上高も大幅に増加いたしました。さらに、春休み及びゴールデンウィークにはドキドキ！プリキュアをはじめとした様々なキャラクターショーを開催し集客に努めました。

夏のイベントにつきましては、7月14日に「さのよいファイヤーカーニバル2013」を開催し、毎年恒例の30分で8,000発の打上げ花火に加え、総数75チームが参加した「さのよい踊りコンテスト」を開催し、多くのお客様に楽しんでいただきました。

また、7月13日から9月1日にかけての51日間は、ゲームやアニメ等で、小学生を中心に大人気の「ポケットモンスター」をテーマにした体験型イベント「ポケモンわくわくジャングル！ inグリーンランド」を開催するとともに、夏休みの週末やお盆期間を中心に、「仮面ライダーウィザード インフィニティーバトル」を開催し、さらに、8月17日には仮面ライダーウィザードの出演俳優によるトークショーを実施する等、様々なイベントを開催し、集客を図りました。8月の夜間営業におきましては、園内の夜間イルミネーション演出の拡充に加え、夜間特別イベントとして、「サマー大道芸パフォーマンスステージ2013」を開催いたしました。また、8月31日に予定しておりました大花火大会「タマホームスペシャル2013 第10回『花火物語』」につきましては雨天順延しましたが、大盛況のうちに終わりました。

秋のイベントにつきましては、9月14日から11月24日までの72日間、年々、全国各地で盛り上がりを見せている「ハロウィン」をメインテーマとして、「グリーンランド エキサイティング！ハロウィン」と題し、世界各国で人気を集める「ポリョイサーカス」をハロウィン特別バージョンで開催したほか、期間中の3連休に

は、「ハロウィンキッズデイズ」と題し、様々なキャラクターショーを開催し、ファミリー層の集客に努めました。また、10月13日には、ハロウィンをイメージした仕掛け花火による演出や音楽と花火が連動する「ハロウィン花火ショー」を開催いたしました。

冬のイベントにつきましては、大晦日に「グリーンランドプレミアムカウントダウンパーティー2014」と題し、午前0時ちょうどに打上げる「ニューイヤー花火」に加え、若年層に人気の高いアーティストによるコンサートや、福岡よしもとの芸人によるお笑いライブを開催し、多くのお客様にお越しいただきました。また、コンサートの特別観覧席をセットにした前売券等の販売や、アトラクション1回利用券付き入園券の販売により売上高の拡大に努めました。

施設面におきましては、夏のイベントにあわせ、7月14日に九州最大の大観覧車レインボーのイルミネーションを、1,670万色のフルカラーLEDによるライトアップショーとしてリニューアルし、夜間営業時等の魅力度向上に努めました。そのほかにも、全国的な知名度を誇るお化け屋敷「廃校への招待状」のリニューアルや、熊本県のゆるキャラ「くまモン」を日本最大級の高さ5メートルの立体像として園内に設置し、集客に努めました。また、7月20日から8月30日にかけて営業した、大型プール施設「ウォーターパーク」におきましては、「ジャブリントウン」をはじめ、合計8つのプールゾーンを揃え、多くのお客様に楽しんでいただきました。

園内ショップにおきましては、既存店舗について南国リゾート地をモチーフとしたオープンテラス併設型の店舗にリニューアルし、お土産や軽食の販売とくつろぎの空間を兼ね備えたスペースを提供いたしました。また、既存の大型2店舗の営業撤退に伴い、グループ会社での営業に切り替え運営の効率化を図るとともに、各店舗でもそれぞれ特色のある取扱商品の構成やディスプレイの改善にも注力しました。この結果、季節毎の多彩なイベントの開催や春休み及びゴールデンウィークなどの繁忙時が好天に恵まれたことや、園内清掃管理業務の直営化等による経費節減も功を奏し、当連結会計年度の利用者数は、前連結会計年度比40,957人増加の914,190人となり、売上高は前連結会計年度比、279,242千円増加の3,711,621千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比132,194千円増加の438,627千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春のイベントといたしまして、「国立ポリシヨイサーカス」や、人気キャラクターを起用した「4大ヒーロー&ヒロイン大集合」を開催し、ファミリー層の集客を図りました。夏のイベントにつきましては、いわみざわ公園及び遊園地内の合計4つの会場で、ORANGE RANGEや奥田民生をはじめとする、多彩なアーティストによるコンサート「JOIN ALIVE (ジョインアライブ) 2013」が合計4日間にわたり開催され、多くのお客様に楽しんでいただきました。また、夏休みや秋の休日を中心に、「2013サマー&オータムフェスティバル」と題し、テレビ等で人気の様々なキャラクターのショーを開催いたしました。さらに、花火イベントといたしまして、「いわみざわ彩花まつり花火大会」や「いわみざわ公園花火大会」を開催し、集客を図りました。その結果、利用者数はゴールデンウィーク期間の雨天及び低温により低調に推移したものの、その後は順調に回復いたしました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、1月の一部豪雪による影響はあったものの、営業活動においての学校授業の獲得等により利用者数は堅調に推移いたしました。

『いわみざわ公園管理』におきましては、7月に岩見沢市で開催された「ばら制定都市会議 (ばらサミット)」に向けバラ園の整備・改善による魅力的な施設づくりに取り組みました。

以上の結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前連結会計年度比7,872人増加の213,383人となり、売上高は前連結会計年度比8,016千円増加の602,921千円、営業利益につきましては前連結会計年度比12,460千円減少の22,252千円となりました。

また、平成5年から主に車の走行会等のイベントが開催されていた『モビリティおおむた』におきましては、賃借している土地の賃貸人との合意解約により4月30日で営業終了いたしましたので、売上高は前連結会計年度比26,652千円減少の11,171千円となりました。

以上の結果、利用者数は前連結会計年度比48,829人増加の1,127,573人となり、売上高は前連結会計年度比260,607千円増加の4,325,713千円、営業利益につきましては前連結会計年度比117,372千円増加の456,322千円となりました。

(ゴルフ事業)

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩なイベントの開催や、ヘッドスピード測定器を使った企画を実施し、よりオープンコンペの魅力向上を図り、コース整備においても難易度アップに向けたティーインググラウンドの改修・増設を実施いたしました。さらに、フロントカウンターの拡張、ゴルフ場総合管理システムのリニューアル及び受付カードの導入により円滑な受付・精算業務を行い、サービスの改善にも努めました。また、ロッカーをスチール製から木製へ切り替え、グレードアップし、加えて指静脈認証式セーフティーボックスの設置を行う等、設備の拡充にも努め、他ゴルフ場との差別化を図りました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、オープンコンペ等のイベントの開催や外部予約サイトの活用による集客に努めました。また、新型シャワールームの設置を含めた男性浴室の改修、樹木伐採及び剪定による景観の改善等、施設の充実にも力を入れ、顧客満足度の向上に努めました。さらに、コース整備におきましてもグリーン拡張工事を行い、より戦略的なコースづくりに取り組みました。

『広川ゴルフ場』におきましては、様々なイベントの開催により集客に努めるとともに、樹木伐採及び剪定によるコース景観の改善やレディースティーの設置、新規カートの導入、施設内の空調機の取替え等の設備の改善にも努めました。さらには、コース敷地の賃貸人との借地料減額交渉にも継続的に取り組み、経費の削減に取り組みました。

また、大牟田・広川ゴルフ場におきましては、高額会員権保有者及び長期会員権保有者に対する特典を追加し、会員権価値を向上させることで会員権の安定保有を図りました。さらに、会員がその資格を有したまま株主となる特典による会員数の維持及び預託金返還による資金流出の防止を目的として、会員が所有するゴルフ会員権の預託金返還請求債権の一部を出資の対象に自己株式の第三者割当を実施いたしました。また、レストランに新たに設置された会員特別席での誕生日会員に対する特別サービスを実施する等、会員特典を一層充実させてまいりました。

さらには、相互施設利用提携におきまして、韓国及び中国のゴルフ場との連携に加え、国内においても、北海道岩見沢市の「エムズゴルフクラブ」と相互施設利用契約を締結いたしました。これにより韓国を中心とした外国人及び北海道のゴルファーの集客を図るとともに、グリーンランドリゾートを含めた周辺観光施設の利用を促進することで韓国及び北海道における当社3ゴルフ場の知名度及び付加価値の向上やメンバーズゴルフ場の会員権の価値向上を実現しました。

以上の取り組みを行ってまいりましたが、3ゴルフ場とも、近隣ゴルフ場との激しい競争により、3ゴルフ場を合わせた利用者数は、前連結会計年度比3,393人減少の140,369人となり、売上高は前連結会計年度比35,253千円減少の1,008,442千円となり、営業利益につきましても、前連結会計年度比6,023千円減少の5,463千円となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』におきましては、様々な宿泊プランの販売に加え、バーベキューバイキングや鍋バイキング等を積極的に販売するほか、日本初となるカップを置くだけで底からビールが湧き上がる「トルネードディスプレイ」を設置する等、話題作りにも努めました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、自社WEBサイト専用の予約システムを導入し、「くまモン」をテーマとした「ゆるっくまるム」等の特徴ある商品を中心とした客室販売に努めました。また、クリスマス限定で1泊50万円の宿泊プランを造成する等、話題性の喚起を図りました。施設面におきましては廊下クロスの張り替えや外壁塗装に加え、ウルトラマンランド跡地に、ホテル利用者専用駐車場を整備し、路線バスや大型バスの乗り入れを可能にすることで、利便性を向上させました。レストランにおきましては、各店舗での季節感を生かしたメニューづくりや、フルカラーLEDによりライトアップされた観覧車のビュースポットを活かした特別演出プランの造成により利用者の獲得を図りました。さらに12月にはカフェ&バー「グリーンスター」の営業を開始し、既存店舗と差別化した店舗として、利用者の獲得に努めました。婚礼におきましては、チャペルイルミネーションの新設に伴う新たなウェディングプランの造成やウェディングフェアの開催等により利用者の獲得に取り組みました。

『ホテルサンプラザ』におきましては、客室のリニューアルやワインショップ誘致により施設の充実を図るとともに、焼酎フェアやふぐ会席等のイベントを開催するほか、企業周年行事を誘致し、集客に努めました。また、婚礼におきましては、リニューアルした宴会場及びバラ園でのウェディングをPRすることで獲得件数の増加に取り組みました。

『北村温泉ホテル』におきましては、温泉会員の特典内容の拡充、会員限定のプレゼント付き宿泊プランの造成、レストランの新メニュー追加、生ビール飲み放題イベントの開催により集客に努めました。また、夏から秋にかけては地元農産物を販売する等、地域密着型の営業にも取り組みました。

このように、各ホテルが特色あるイベントの開催や商品造成に取り組み、利用者の拡大に努めました結果、ホテルブランカ及びホテルヴェルデの宿泊者数は増加しましたが、ホテルサンプラザ及び北村温泉ホテルの宿泊者数の減少や宴会・婚礼の売上高が減少したため、宿泊者数は前連結会計年度比437人減の97,415人となり、売上高は前連結会計年度比102,195千円減の1,927,645千円、営業利益は前連結会計年度比22,143千円減の25,676千円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、9月1日のウルトラマンランド営業終了に伴い、ウルトラマンランド賃貸地の土地賃貸契約が9月22日に解約となりましたが、ゴルフ場に隣接する当社所有地に「メガソーラー事業」を誘致し、4月19日から所有地の一部の賃貸を開始したため、売上高は前連結会計年度比1,842千円増の166,984千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比11,435千円増の115,791千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、既存事業の建設資材の受注増加に加え、新規土木工事の獲得により、売上高は前連結会計年度比115,798千円増加の410,653千円、営業利益は前連結会計年度比14,593千円増加の55,270千円となりました。

(その他の事業)

ギフト商品販売及び保険商品販売業につきましては、コンペ商品及び大型の仏事返礼品の売上高が減少したため、売上高は前連結会計年度比2,691千円減少の34,175千円、営業損失につきましては、3,641千円（前連結会計年度は、営業利益9,439千円）となりました。

2)次期の見通し

今後も、アベノミクスによる個人消費の回復が期待される一方で、消費増税による影響も考えられる等、当社グループを取巻く環境及び消費動向は変化が続くものと思われま。

このような状況の中、当社グループといたしましては、「常に変化を求めて」をテーマとし、何事に対しても自ら仕掛け、全体を見据えたうえで戦略的に変革を起こし、グループのさらなる発展につなげていくことに努めます。この目標達成のため、既存の集客体制や業務内容について固定観念にとらわれることなく、お客様が求めるサービスは何かを常に意識しながら業務に取り組むことで、顧客拡大を目指します。

なお、これまで「その他事業」に含めていました、ギフト商品販売業及び保険代理店業につきましては、ギフト商品販売業がホテル事業における婚礼との関連性が高いため、今後は「ホテル事業」に含めるものいたします。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、四季折々の自然景観の維持向上・ここでしか見ることができない魅力あふれるイベントの開催・テーマ性のある園内空間づくり・イルミネーションの充実による新たな夜間営業の在り方の検討等、新しい魅力づくりに邁進してまいります。

さらに、6月2日からは入園料金を改定するとともに、遊園地のハードウェア・ソフトウェア両面において、さらなる拡充・改善に一層注力いたします。

また、施設面におきましては、より一層の安全管理を心掛け、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、これまでも増して、施設の点検整備及びショップ取扱商品の品質管理に努めてまいります。

春のイベントにつきましては、メインイベントを「超決戦バトルステージ」と題し、期間を三つに分け、第一部の3月1日から3月28日の28日間は獣電戦隊キョウリュウジャーをメインキャラクターとした、「獣電戦隊キョウリュウジャー 超決戦バトルステージ」を、第二部及び第三部は、仮面ライダー鎧武をメインキャラクターとし、3月29日から4月25日までの28日間は「仮面ライダー鎧武 超決戦バトルステージ 昭和英雄伝」を、4月26日から6月1日にかけての37日間及び6月7日から6月29日までの土・日にかけての8日間は「仮面ライダー鎧武 超決戦バトルステージ 平成英雄伝」を開催し、巨大ステージを使用したバイクパフォーマンスやワイヤーアクションを駆使することで、こどもから大人まで楽しめるスケールの大きなショーを開催いたします。その他、ゴールデンウィーク等の集客の山場には、様々なスペシャルイベントを開催いたします。さらに、3月15日から5月6日にかけての53日間は、「マギ展—マジカルアドベンチャー—inグリーンランド」と題し、マンガやアニメ等が10代から20代の女性を中心に人気を集めている「マギ」を題材とした展示イベントを開催いたします。さらに、園内の飲食店にて「マギ」をテーマにしたメニューの販売や、アニメ声優のトークショー等も行うことで、若者層を中心とした集客を図ります。それ以降につきましても、各世代で話題性の高い題材を選定し、ここでしか見ることのできないイベントを季節毎に開催し、集客を図ってまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、4月19日から5月25日までの37日間「わんわん大サーカス」を開催するほか、集客の山場となるゴールデンウィーク期間には、こどもたちに人気のキャラクターショー等を開催いたします。さらに、毎年恒例の夏のコンサート「JOIN ALIVE (ジョインアライブ)」や、夏休みや秋の休日を中心に多彩なイベントにより、集客に努めてまいります。

そのほか4月19日からフリーパス料金を改定し、売上高の増加及び遊園地のハードウェア・ソフトウェア両面において、拡充・改善を図るとともに、外部への遊具の整備及び販売事業を確立させていくことにも取り組んでまいります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、学校授業の獲得による学校団体を中心としたセット商品の販売強化に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、3ゴルフ場ともに、様々なイベントを開催するとともに、営業部との連携強化による各種団体組織への直接セールスや、ネット販売を効率的に活用することにより集客を図ってまいります。また、ティーマーク位置を色々な場所の使用により、いつもと違ったゴルフ場が楽しめるような新たな方策を取り進めてまいります。加えて、大牟田ゴルフ場及び広川ゴルフ場におきましてはキャディ付ゴルフ場である強みを一層発揮するため、キャディ付プレイの特典を充実させ、お客様により快適にプレイしていただくことで、さらなる差別化を図ります。施設面では、乗用カートのリニューアルや浴室の改修のほか、ティーインググラウンドやグリーンの整備、さらにはコース景観の改善等により一層魅力的なコースづくりにも取り組んでまいります。また、相互施設利用提携におきましては、韓国・中国の5つのゴルフ場及び北海道岩見沢市のエムズゴルフクラブからのメンバー交流推進による集客を図るとともに、グリーンランドリゾートゴルフコースの付加価値やメンバーズゴルフ場の会員権価値の向上に引き続き努めてまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地内のショップにホテルのPRコーナーを設け、情報発信にも注力し、遊園地及びゴルフ場利用者の宿泊拠点としての役割にさらに磨きをかけることで魅力向上に努めてまいります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、オープンカフェテラスを新設し、エントランス周辺のリニューアルにより新たな需要拡大に取り組んでまいります。レストランにおきましては昨年オープンしたカフェ&バー「グリーンスター」を婚礼及び宴会の二次会会場として積極的に販売するとともに、レストラントレヴィに高級感を持たせることで、あらゆる層の顧客ニーズに応え、利用者の獲得を図ります。客室販売におきましては「ゆるっくまルーム」に加え、遊園地の春のイベント開催にあわせ「仮面ライダー鎧武/ガイムルーム」を期間限定で新設する等、特徴ある商品づくりに努めてまいります。さらに、館内外のイルミネーションを利用した特別演出プランによるレストラン・婚礼での集客強化に取り組んでまいります。

北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、地域に根付いた営業戦略によるリピーターを飽きさせない変化に富んだ商品・サービスの展開に取り組めます。また、昨年締結したエムズゴルフクラブとの相互施設利用契約を活かし、九州からの宿泊者の獲得を図り、加えて北村温泉ホテルにおきましては、本年4月より新たに北村中央公園・桜づつみ公園の指定管理者を受注し、北村温泉エリアを一体とした魅力ある商品の開発にも取り組んでまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、新規テナントの誘致をはじめ、グリーンランドリゾートエリアを中心とした土地のさらなる有効活用に取り組んでまいります。また、固定資産税評価替えに向けての検証や各事業の借地物件における借地料の見直しを継続的に行ってまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、既存事業による収益確保に加え、自社保有の機械や人材を効率的に活用し、土木建設工事の積極的な受注、建設資材の販売をさらに強化していくことで、収益体制の底上げを図ってまいります。

当社グループといたしましては、お客様との積極的なコミュニケーションにより、最高の思い出となる「時間」と「空間」を提供し、お客様のココロをみどりいっぱいにすることで、顧客満足度及び業績の向上に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,820百万円(前年同期比△0.7%)、営業利益320百万円(前年同期比△11.3%)、経常利益280百万円(前年同期比△9.6%)、当期純利益180百万円(前年同期比△6.1%)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,800,551円（前連結会計年度比123,797千円増加）となりました。

流動資産は、742,212千円（前連結会計年度比32,116千円減少）となりました。主な要因は現金及び預金の減少等によるものであります。

固定資産は、21,058,339千円（前連結会計年度比155,914千円増加）となりました。主な要因は有形固定資産の取得等によるものであります。

流動負債は、4,533,448千円（前連結会計年度比19,758千円減少）となりました。主な要因は未払金等の増加及び短期借入金の減少等によるものであります。

固定負債は、6,911,818千円（前連結会計年度比42,662千円減少）となりました。主な要因は長期借入金の増加及び長期預り金の減少等によるものであります。

純資産は、10,355,285千円（前連結会計年度比186,219千円増加）となりました。主な要因は利益剰余金の増加等によるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動によるキャッシュ・フローで655,379千円増加したものの、投資活動によるキャッシュ・フローで464,819千円、財務活動によるキャッシュ・フローで261,639千円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べ71,078千円減少し、239,791千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、655,379千円（前連結会計年度に比べ22,231千円増加）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益により363,768千円、減価償却費により427,325千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、464,819千円減少（前連結会計年度に比べ93,345千円減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出で467,670千円、資金が減少したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、261,639千円減少（前連結会計年度に比べ25,847千円減少）となりました。これは主に、長期預り金の返還による支出により201,000千円、資金が減少したためであります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の使途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき6円となる予定であり、中間配当金4円を含めると年間配当金は1株につき10円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を3円、期末配当金を5円の年間配当金8円を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の販売・運搬等を行い、また、その他の事業として生損保代理店業等営業業務、都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.25%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内3店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。
北海道グリーンランド遊園地(北海道)	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。

<不動産事業>

不 動 産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-------	-----------------------

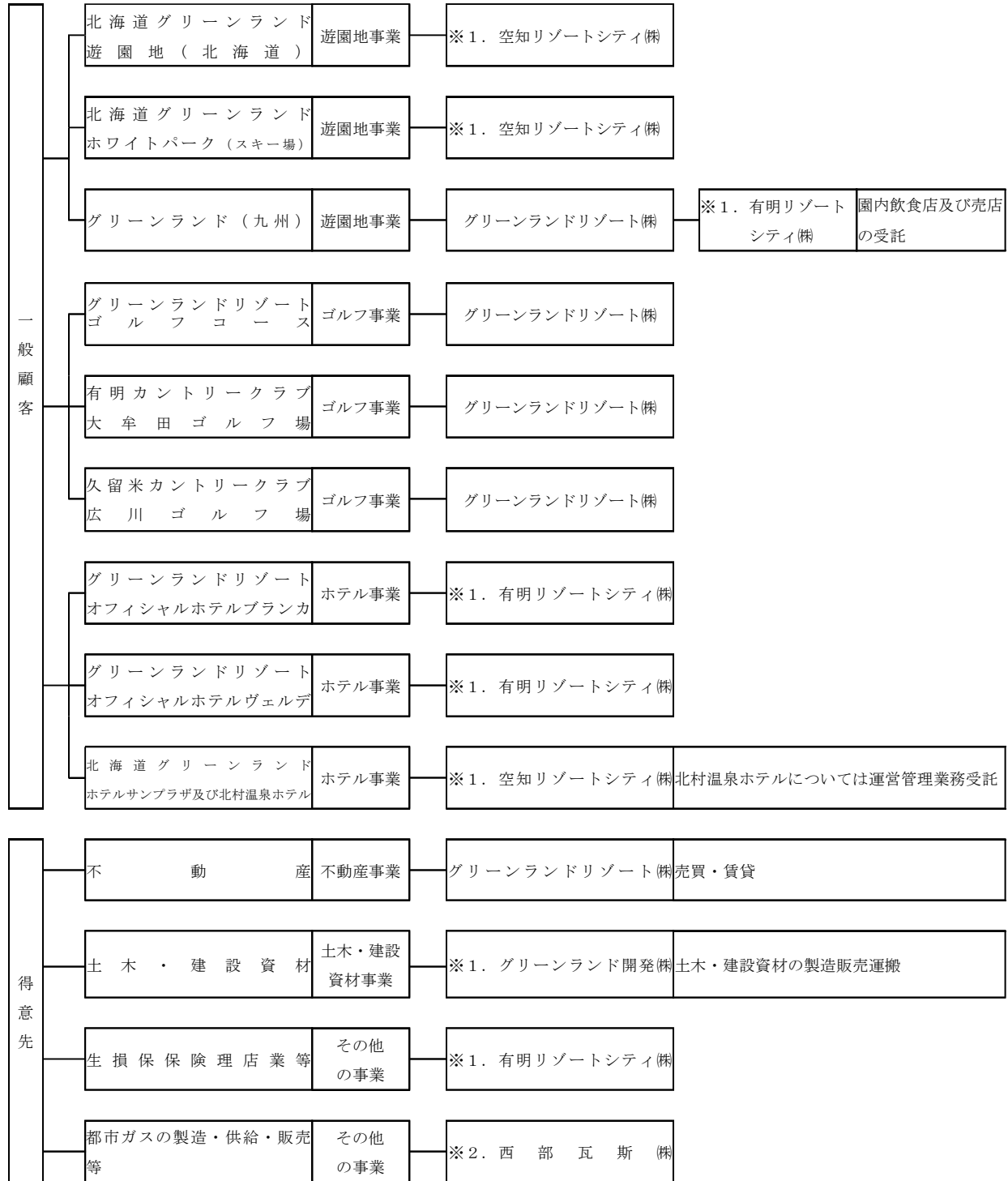
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

生損保保険代理店業等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。
都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

創業以来現在まで、たゆまぬ創造・革新によってお客様に常に満足を提供することを心がけてまいりました。これからも企業理念のキャッチコピーである「ココロを『みどり』でいっぱい。」を合言葉に、各事業におきまして、お客様に夢や感動を提供することを最重要課題と位置付、スタッフ一人一人が、いかなる状況の変化にも対応し、その状況を突破するための柔軟な発想と実行力を持つことに重点を置き、新しい付加価値を次々と創出していくことで、当社グループ事業の「強み」に磨きをかけ、日々変化する顧客ニーズや消費動向に対応するとともに、当社グループ事業の競争力を高めることで業績向上に努めてまいります。

また、企業として利益の確保に向けた経営を進めていくことはもちろんのこと、社会的責任を自覚の上、法令の遵守や倫理に則った企業活動を実践し、地域発展への貢献にも努め、すべてのステークホルダーから「信頼」される企業を目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

目まぐるしく変化する消費動向に対応し、常に変化し続ける営業体制作りを心がけ、様々な商品やサービスの提供に努めて集客を図り売上増加を目指すとともに、現状分析及び関連設備の全面的な見直しを行い、無駄な経費の削減に努めてまいります。

このため、売上高経常利益率の向上を目標としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

集客事業を柱とする当社グループでは、多彩なイベントの開催・季節に応じたキャンペーンの造成・昨今増加しつつある女性層や若年層に的を絞った戦略・さらには海外からのお客様に向けた制度を最大限に活かした営業展開や商品の販売強化に引き続き取り組み、さらなる集客を図ります。

また、外部環境に柔軟に対応可能な組織変更やグループ再編による各事業の効率化の実現を目指してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

レジャー産業を取り巻く社会環境は、刻々と変化を続け、消費動向や顧客ニーズはさらに多様化し、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、当社グループとしましては、企業理念である「夢や感動を与える企業」を目指し、お客様一人一人と向き合い、子どもたちに夢を与え、また、多くのお客様に感動をお届けできるような魅力ある施設作りや、真心を込めたサービスの追求に努めていくことで、一人でも多くのお客様にご利用いただき、さらなるリピーターの獲得に取り組み、業績向上に努めてまいります。

また、これまでも増して、遊園地の安全面について万全の体制を敷き、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設の点検整備並びに園内環境整備の取り組みを基本とし、さらには、園内において様々な空間演出に力を入れ、賑やかさを創り出し、お客様により一層の楽しさを提供してまいります。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当連結会計年度 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	313,970	241,291
受取手形及び売掛金	259,000	291,266
商品及び製品	43,159	37,236
原材料及び貯蔵品	52,803	57,395
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	18,923	24,959
その他	98,136	95,880
貸倒引当金	△18,795	△12,948
流動資産合計	774,329	742,212
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,047,910	13,190,622
減価償却累計額	△8,421,754	△8,704,411
建物及び構築物 (純額)	4,626,155	4,486,211
機械装置及び運搬具	3,140,160	3,180,606
減価償却累計額	△2,657,850	△2,765,344
機械装置及び運搬具 (純額)	482,309	415,261
土地	14,782,352	15,073,825
リース資産	65,711	94,647
減価償却累計額	△14,490	△24,252
リース資産 (純額)	51,221	70,394
建設仮勘定	—	2,685
その他	1,032,647	1,051,380
減価償却累計額	△960,010	△972,104
その他 (純額)	72,637	79,276
有形固定資産合計	20,014,676	20,127,654
無形固定資産		
その他	245,707	227,098
無形固定資産合計	245,707	227,098
投資その他の資産		
投資有価証券	199,079	267,489
繰延税金資産	325,195	302,641
その他	119,044	143,240
貸倒引当金	△1,279	△9,783
投資その他の資産合計	642,040	703,586
固定資産合計	20,902,424	21,058,339
資産合計	21,676,754	21,800,551

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当連結会計年度 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,953	81,455
営業未払金	84,680	100,271
短期借入金	3,920,380	3,767,513
リース債務	9,747	17,416
未払金	245,626	308,933
未払法人税等	85,697	118,965
役員賞与引当金	-	10,630
その他	127,121	128,263
流動負債合計	4,553,206	4,533,448
固定負債		
長期借入金	3,209,674	3,408,796
長期預り金	3,536,111	3,295,991
リース債務	49,323	45,323
退職給付引当金	13,768	9,059
役員退職慰労引当金	42,538	-
繰延税金負債	-	22,981
その他	103,065	129,665
固定負債合計	6,954,481	6,911,818
負債合計	11,507,687	11,445,266
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,274,342	1,384,246
自己株式	△42,247	△2,992
株主資本合計	10,180,030	10,329,189
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10,964	26,095
その他の包括利益累計額合計	△10,964	26,095
純資産合計	10,169,066	10,355,285
負債純資産合計	21,676,754	21,800,551

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	7,635,507	7,873,615
売上原価	6,798,943	6,909,663
売上総利益	836,563	963,951
販売費及び一般管理費	566,658	603,397
営業利益	269,905	360,553
営業外収益		
受取利息	192	85
受取配当金	4,007	5,441
受取賃貸料	3,256	3,372
受取保険金	10,837	14,042
助成金収入	7,123	5,758
受取補償金	2,586	-
雑収入	4,452	5,585
営業外収益合計	32,455	34,284
営業外費用		
支払利息	94,660	82,506
雑損失	2,265	2,752
営業外費用合計	96,925	85,259
経常利益	205,435	309,579
特別利益		
固定資産売却益	3,431	9,073
受取保険金	40,792	60,541
収用補償金	3,882	-
受取補償金	-	19,045
その他	900	2,967
特別利益合計	49,006	91,627
特別損失		
固定資産除売却損	1,203	8,687
減損損失	7,214	-
災害による損失	15,618	23,191
固定資産圧縮損	1,012	-
廃棄費用	-	5,559
特別損失合計	25,049	37,438
税金等調整前当期純利益	229,392	363,768
法人税、住民税及び事業税	102,451	152,595
法人税等調整額	△296	19,393
法人税等合計	102,155	171,989
少数株主損益調整前当期純利益	127,237	191,779
当期純利益	127,237	191,779

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	127,237	191,779
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,726	37,060
その他の包括利益合計	8,726	37,060
包括利益	135,963	228,839
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	135,963	228,839
少数株主に係る包括利益	-	-

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,208,411	△42,176	10,114,171
当期変動額					
剰余金の配当			△61,306		△61,306
当期純利益			127,237		127,237
自己株式の取得				△71	△71
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	65,930	△71	65,859
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,274,342	△42,247	10,180,030

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△19,690	△19,690	10,094,480
当期変動額			
剰余金の配当			△61,306
当期純利益			127,237
自己株式の取得			△71
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	8,726	8,726	8,726
当期変動額合計	8,726	8,726	74,585
当期末残高	△10,964	△10,964	10,169,066

当連結会計年度 (自平成25年1月1日 至平成25年12月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,274,342	△42,247	10,180,030
当期変動額					
剰余金の配当			△81,740		△81,740
当期純利益			191,779		191,779
自己株式の処分			△134	39,254	39,120
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	-	109,904	39,254	149,158
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,384,246	△2,992	10,329,189

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△10,964	△10,964	10,169,066
当期変動額			
剰余金の配当			△81,740
当期純利益			191,779
自己株式の処分			39,120
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	37,060	37,060	37,060
当期変動額合計	37,060	37,060	186,219
当期末残高	26,095	26,095	10,355,285

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	229,392	363,768
減価償却費	459,946	427,325
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△20,392	△4,708
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	-	△42,538
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△684	2,657
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	-	13,730
受取利息及び受取配当金	△4,199	△5,527
支払利息	94,660	82,506
受取保険金	△40,792	△73,011
固定資産売却損益 (△は益)	△3,431	△9,073
固定資産除売却損益 (△は益)	1,203	8,687
売上債権の増減額 (△は増加)	30,086	△37,079
たな卸資産の増減額 (△は増加)	320,006	1,330
たな卸資産から有形固定資産への振替	△340,406	-
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6,067	17,093
未払金の増減額 (△は減少)	27,776	33,745
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△13,150	27,276
その他	△7,183	△26,223
小計	726,763	779,959
利息及び配当金の受取額	4,199	5,527
利息の支払額	△93,698	△81,705
保険金の受取額	40,792	73,011
法人税等の支払額	△44,908	△121,412
営業活動によるキャッシュ・フロー	633,148	655,379
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,800	△5,800
定期預金の払戻による収入	8,400	7,400
有価証券の売却による収入	999	-
有形固定資産の取得による支出	△380,993	△467,670
有形固定資産の売却による収入	2,876	10,380
無形固定資産の取得による支出	△374	△897
貸付金の回収による収入	3,333	3,055
投資有価証券の取得による支出	-	△24,442
投資有価証券の売却による収入	-	13,200
その他	84	△44
投資活動によるキャッシュ・フロー	△371,473	△464,819
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	294,850	△141,850
長期借入れによる収入	1,140,000	1,770,000
長期借入金の返済による支出	△1,399,712	△1,581,895
長期預り金の受入による収入	6,100	-
長期預り金の返還による支出	△209,300	△201,000
リース債務の返済による支出	△6,295	△25,265
自己株式の取得による支出	△71	-
配当金の支払額	△61,362	△81,628
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235,791	△261,639
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	25,883	△71,078
現金及び現金同等物の期首残高	284,987	310,870
現金及び現金同等物の期末残高	310,870	239,791

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

a. セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」、「その他の事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬
その他の事業	: 生損保保険代理店等営業業務、労働者派遣業務

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト							調整額 (注) 1、2	連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建 設 資 材 事 業	そ の 他 の 事 業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	4,065,106	1,043,695	2,029,841	165,142	294,854	36,866	7,635,507	—	7,635,507
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,904	21,179	69,756	18,737	16,651	86,479	217,709	△217,709	—
計	4,070,011	1,064,875	2,099,598	183,879	311,506	123,346	7,853,217	△217,709	7,635,507
セグメント利益	338,950	11,487	47,820	104,356	40,677	9,439	552,731	△282,825	269,905
セグメント資産	4,974,503	9,110,305	3,719,104	2,636,508	593,687	113,318	21,147,429	529,324	21,676,754
その他の項目									
減価償却費	171,698	61,759	168,613	19,234	34,010	191	455,507	4,261	459,769
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	291,504	35,932	69,208	12,176	20,715	—	429,537	8,636	438,173

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△274,804千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント資産の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社資産670,770千円が含まれております。その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び本社管理部門の資産であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。
4. 従来、不動産事業のたな卸資産として保有しておりました340,406千円は所有目的を変更したため、当連結会計年度より遊園地事業の有形固定資産「土地」に振り替えております。

当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1、2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	その他 の事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	4,325,713	1,008,442	1,927,645	166,984	410,653	34,175	7,873,615	—	7,873,615
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,173	11,292	78,254	20,629	18,280	20,074	153,705	△153,705	—
計	4,330,887	1,019,734	2,005,900	187,614	428,934	54,249	8,027,321	△153,705	7,873,615
セグメント利益	456,322	5,463	25,676	115,791	55,270	△3,641	654,883	△294,329	360,553
セグメント資産	5,175,206	8,449,140	3,655,561	3,301,929	560,911	12,615	21,155,365	645,186	21,800,551
その他の項目									
減価償却費	155,763	54,227	165,676	18,402	28,840	173	423,083	4,241	427,325
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	341,607	45,636	92,802	34,450	4,627	—	519,125	2,737	521,862

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△290,342千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント資産の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社資産570,770千円が含まれております。その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び本社管理部門の資産であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり純資産額	995.25円	1,001.72円
1株当たり当期純利益金額	12.45円	18.73円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)
当期純利益(千円)	127,237	191,779
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	127,237	191,779
期中平均株式数(千株)	10,217	10,237

(重要な後発事象)

該当事項はありません。